

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話(521)8494

● 100万人参観者運動を!

'84年2月来館者数	7,268名
通算1カ月平均来館者数	4,848名
当月1日平均来館者数	291名
通算来館者数	450,828名

ビキニ水爆被災三〇年を迎えた今

榎山義夫

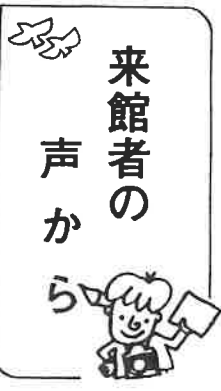
三月一日が近づいたせいか、今頃、いろいろな機関紙などから、あの第五福竜丸やその久保山さんを中心とした回想録を書いてくれという註文がくる。三〇年というと、人によっては短い一生ほどの長さの間でもあり、当時は働きざかりの年令の私ではあったが、もう七十歳を過ぎて、よく「俺しか知らない話」といって書く人もいるが、この事件については私と共に働き、かわりあつた人は、大ぜいいたが殆ど他界してしまい、会長の三宅泰雄さんと私ぐらいが、病気をしながらでも生きています。しかし、当時のことを書けといわれても、残ったものは、ポロボロの船体と、これも貴重品になつた当時の書類や報告書、新聞などである。細かくこれらを再記録してもはじまらない。

それより、放射能についての社会一般の概念が、この三〇年で極端に正反対の二つの方向に分かれてしまつている現状を今となつては正視せざるを得ない、その二つというのは、三〇年前に、カウンとかマイクロ・キューリーとかいう単位が新聞にまで出て、キューリーというのは放射能の量の単位で、およそラジウム一グラムほどの大きさだが、マイクロ・キューリーとはその百万分の一、マイクロ・マイクロというのは、そのさらに百万分の一という大きなのだが、新聞はマイクロ・マイクロキューリーと原稿にはあつても、二つあるのは間違いだらうと思つて、一つを消してしまつて印刷してしまつた。その新聞報道などがもとになつて、米國にもその他の國にも報道されたので、米國はもちろん、諸外國にも報道されて科学者達も驚いた。当時、日本の中にも、広島・長崎に落ちた原爆ぐらゐの放射能で、あの広い太平洋が汚染されるということはないかろうと、有力な物理学者が意見を

述べたこともあつて、まったく世論は極端に乱れとんだ。その結果、水産庁は調査船「俊鶴丸」を現地調査に派遣することになり、若手の学者に新聞記者も加わつて、調査した。

また一方、南洋でマグロをとつて帰ってきた船の放射能の検査が漁港で行われ、その結果、多くの船から放射能も検出され、漁獲物のマグロからも放射能が、はじめは体の表面に、あとからは内臓から、検知された。しかし、もうすでに、下火にもなり、空からの降下物で、当時さかんに出廻つた露地のイチゴとか、新茶の葉などからも放射能は見付かつたので、その放射能の量も、ラジウム温泉に入つたり、検診でレントゲンを使うときに受ける量に比較できる位だとわかつてからは、マグロの検査も中止するにいたつた。

これほどのことを、当時の新聞や世論があれほどの取り上げ方をした主因は、放射能そのものをおそれるといふ心理よりも、それを発生させる、強い物理的な破壊力をもつ原爆それ自身に対するおそれ、誰も心の底にあつたからであろう。(2めんへつづく)



三月一日、展示館に訪ずれた見学者のさまざまな想いを知りたいと思ひ直接「声」を聞いてみました。

今日は休みでただふらつと立寄つたのでこの日が、福竜丸が被災して三十年目の三月一日とは知らなかつた。事件当時は茨城県に住んでいたのであまり記憶に残っていないが、放射能の雨が降つてくるとか印象にある。こういう核兵器が存在していることに危機感がある。現実起こつてはならないことである。

水爆によって、船がポロボロになり、すてられたマグロがもつたいない。核兵器はたいへん恐い。実験をやつたアメリカが憎たらしい。世界中の人々が仲良くなつて戦争や爆弾をなくしてほしい。

中央区明王小 四年生八人 *

友人とともに訪ねました。小学一年生の頃、死の灰によつてまぐろが食べられなかつたことを覚えています。女の立場として母親としても、戦争や核兵器使用は反対します。思想・信条を超えてみんなが一つになつて力を合わせて、核兵器をなくす方向にもつていくことが大切だと思います。子どもたちが、この展示館へ来て何かを感じてもらえれば。

今日が三月一日だから。この展示館へは三、四回訪ねた。学校で昨年十月文化祭でビキニ事件について学習し、展示もやつた。級友と一緒に核を考へるという同好会をつくつていて、会員は一五、六人。原水爆の実験は今でもやられているので、はたしてマグロは安全なのであろうかと不安がある。このことは身近な問題だと思う。広島・長崎の原爆は知る機会があるが、ビキニ事件はあまり知られていないし、原爆が落とされた後日本人が中心になつて反対してい

たから、この事件はなかつたのでは。女子聖学院 岡本・青柳さん *

先ずここへ来るために東陽町地下鉄駅で降りて「第五福竜丸が保存されているのは夢の島でした。しょうか？」と二五、六歳の青年に尋ねたところ「第五福竜丸ってなんだ」と言つた。「あの第五福竜丸をあなたはご存知ないのですか」と聞けば「知らない」と言う。これには、私も頭にきた。いったい先生も親も何を教えているのかと思つた。先生も親たちも語りつがなければなりません。

今日が、久保山さんの命日かと感じがいていた。ここへは五年前の小学六年生の時、先生と十名のクラスメイトと一緒に来て、館長さんから絵が描かれた色紙をいただいたことノートに感想を書いたことが印象に残っている。あの頃の感想文ノートの自分の文字を見つけてなつかしい思いと同時に感激した。先生から有事立法の問題を出され、友だちといろんな本を読んで調べた事が思い出にある。平和・社会問題はおしつけるものではなくて、知つていく場をつくつていくべきだと思ふ。

浦和西高 中條さん

編集後記

▼ビキニ水爆被災三〇周年とあつて展示館には連日報道関係者が取材に訪ずれ忙しい日々が続いたが展示館の存在がクローズアップされたことが何より嬉しかつた。

▼「唯一の被爆國として、核廃絶のために行動をおこすべきだ」と展示館を訪ずれた男子高校生が言つた。その言葉に期待をこめて、さらに問うと、「口では反対するがいざ、行動となると抵抗がある」と不安そうに語つた。他の人にも尋ねたが、やはり同じ答えだつた。「まじめなことに對して行動をおこすことは大変勇気がいる」ことだそうであるが、それが今の現状ではないかと思つた。この現状を変えるため人を動かす力をもつた運動が大きく展開されることを願わずにいられない。(も)

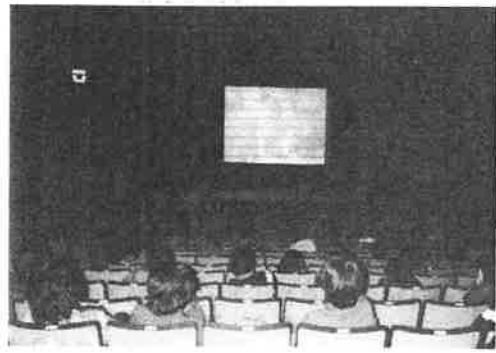
「原水爆の被害者は私を最後にしてほしい」(三宅泰雄著)の色紙ができました。資料室建設のために二千円以上のカンパをしてくださった方にお礼としてさしあげます。

水爆の恐怖肌で感じた映画会

地元・江東区の人々と共に30周年を記念

「終」の文字が消えて真暗なスクリーンに流れる不気味な音楽、長く続いたその時間は、水爆におののく人々の心を象徴するかのよう、幕がおりた。たんフーッとためいきが場内に流れた。

三月一日、江東区文化センターでひらかれた「ビキニ水爆被災三十周年記念映画会」(平和協会主催)は、黒沢明監督の「生きものの記録」を上映、二百人近い参加



者は、あらためて原水爆の恐怖を肌で感じとった。一九五五年の作品とはいえ一人の老人のすさまじい生き方の中に深い共鳴と新鮮な驚きを貰えたのだ。

映画に先立って、猿橋勝子理事が主催者あいさつを行ない、日本原子力環境工学研究協会の亀田和久専務理事が「ビキニ事件と私」と題して記念報告、30年前俊鶴丸に乗船しビキニ海域の放射能調査にあたった当時のことを報告した。

また、映画のスタッフの一人、村木与四郎美術監督がインタビューにこたえ、「原水爆の脅威を真剣に考えつめたら果して人間はどうなるだろうか」というのが主テーマでありその表現に一番苦しんだなど製作の苦労話を紹介した。場内には長さ二メートルちかい当時のポスターや、ビキニ事件の写真パネル、第五福竜丸の大漁旗も飾られ、参加者も青年学生はじめ江東区の労働組合、商店の人々も多数みられ、第五福竜丸展示館の地元にもふさわしい映画会であった。

このおそれは、あれからの三〇年に、まさしく強大なものになってしまった。これから起こるかもしれない原爆戦争によって、地球上の人類の楽しく住むことができる世界を、今までの爆弾のような機械的破壊だけでなく、放射能による冷たい死の世界の招来を起こしたら、未来永劫に、地球上に生物

ひしひしと30周年の重み 募金に、来館者に、報道に

映画会の会場ロビーに三〇周年の新聞報道の主なものを展示した。大きな模造紙五枚にものぼった展示館には新聞社、テレビ局がいろいろ取材、ビキニ被災三〇周年の重みをひしひしと感じさせたのであった。乗組員の大石さんも何回もかけつけインタビューに応じ静岡県民テレビは二日間にもわたって取材、暗闇の中にくっきり浮ぶ福竜丸からはじまる四〇分余のドキュメンタリーを地元で放映した。

一日には横浜市従業員組合の代表がバス一台で展示館を訪ねたほか、テレビの取材であわただしい中、三百名余の見学者が被災三〇周年の船と直接対面したのであった。

は住めないという、人類自殺の愚かさをもたらしてはならない。このことは、どこの国よりも、原爆被爆の体験をもつ唯一の国、日本が、世界に向って大きく叫び、そのような愚かさをおこさぬような調停をなすべき時であると、心の底から叫びたい。
(第五福竜丸平和協会副会長)

三月四日の日曜日には、展示館前で平和と軍縮をめざす全国連絡会の青年・学生によって「三・一ビキニデー平和の集い」が開かれた。平和協会から本多喜美さん、東友会の長尾さん、豊島の被爆者の代表らがいさつ、第五福竜丸の保存、資料室開設のため続けてきた署名、カンパも平和協会にわたされ、亀戸駅前まで平和行進がおこなわれた。

マーシャルの代表も船を見、船におこったことを知り、明日からのエネルギーがわいてきた。二月二十八日、展示館を三・一中央集会のため来日したマーシャル諸島タエゼリン環礁組合のラジ・タフトさん、ハワイのカホオラウエ島守る会のカラマ・アカミネさんが訪ね、一時間余にわたって見学、交流を深めた。

今、語る

ビキニ水爆被災三〇年めに

元乗組員 斉藤 明

ビキニ水爆被災三〇年というこの機会に、元乗組員のさまざまな心情を、お伝えできればと思い、焼津在中の元漁労長の見崎吉男さんに相談に行ったのは昨年の十二月。期待と一抹の不安をいだき、福竜丸だよりを添えて元乗組員一人一人に手紙を送った。

第五福竜丸平和協会の福竜丸だよりをはじめ読ませていただきまして、関係者のご苦勞に感謝を申し上げると同時に私もその要請にお応えしなければと思ひまして筆をとりました。

ビキニ環礁で被災してから早や三〇年になりました。私も結婚して四人の子供に恵まれ、それぞれ社会に送り出してやることもでき、人生五十五年の後を振り返ることのできるこの頃です。

被災三〇年記念ということは、その節目の中でも意義ある時期であろうと思います。私は「俺の番だ」ということが好きです。今言わなければ時期を失せるということ、思い切って自分の思っ

いることを申し上げます。

全世界人類の最大の関心事であります原水爆禁止、核兵器廃絶運動をしりぬにして、米・ソ両大国をはじめ、イギリス、フランスと次々に核の保有国が増えつつある時に恐るべき未来に思いを憂いし、全人類の世論を喚起し、その使用禁止、そして廃絶を天の声として訴え続けなければならぬ年であります。日本は有史以来の豊かで平和な国となり人々は泰平に慣れて明日の危機さえ予測することにも免疫になりがちになり経済的な豊かさを求める事に英知の限りをつくし留まることを知らない躍進を続けているのが現情であります。

こうした平和の反動がいつか有る事も考えて一度立ち止まって後を振り返る事も大事なことです。国際政治の闘争のきびしい中に入ることはむずかしい事ですが、私達は少なくとも原爆反対を叫び続けなければならぬと思う次第であります。

三〇年前の三月一日、南洋の静かな夜明け前、私達福竜丸の頭上に突如ふりかかったあの悪魔の日から三〇年私の胸の中に去来する苦難のいきごとがよみがえってきてその想いを新たにしています。

私の時代は残り僅かではありますが私の子供や孫の時代は永久に平和に引き継がれていかなければならないと思うのは、私一人ではないと思います。こうしたささやかな願いが全世界の世論となり一人でも多くの人が核兵器に反対する意識が高まり争いのない平和の実現に努力をするよう呼びかけるものです。

東京都の夢の島に大事に保存されている福竜丸の管理、並びに平和活動にたいして、元乗組員の一人として心から敬意を表して、皆さんの活躍が実のあるものになりますよう祈念しまして、粗文であります。ペンを置きます。

第五福竜丸の甲板員であった斉藤明さん(当時二五歳)は現在、郷里の鹿児島県の屋久島で一貫して漁を続けています。

お母さん 三〇万円の募金

三月三日、新日本婦人の会東京都本部から、第五福竜丸保存のために三〇万円が平和協会に贈られた。子どもたちに平和な未来を、と毎年行なわれている「ひなまつり行動」にむけ、お母さんたちが一円玉募金をつづけ、この日さまざまな要求をかがげて対都交渉、要請を行なった一つとして、都に平和のシンボルとしての第五福竜丸の永久保存とその修理を要請した。都の建設局公園緑地部を通じて協会に贈られた。夢の島からとるものもとりあえず代表がかけつけ心のこもった一円玉を受け取った。職場で町内でまたお風呂やさんに募金の箱・缶をおいて訴えたものであった。

和歌山から大工さん

二月二十八日、和歌山県古座から第五福竜丸を作った大工さん南藤藤夫さんが来館した。船の本格修理のための測量を続けている文化財建造物保存技術協会との懇談のため、折から来館中の同協会の四十人近い若手技術者の研修班とくまなく船内を巡ったあと、関係者に当時の設計上の苦勞をはじめ修理のための意見を交換した。